

# 宇宙技術戦略（宇宙輸送分野）改訂の 補足説明資料

2026年2月5日

経済産業省 宇宙産業課

# 改訂の背景と課題

## 【背景】

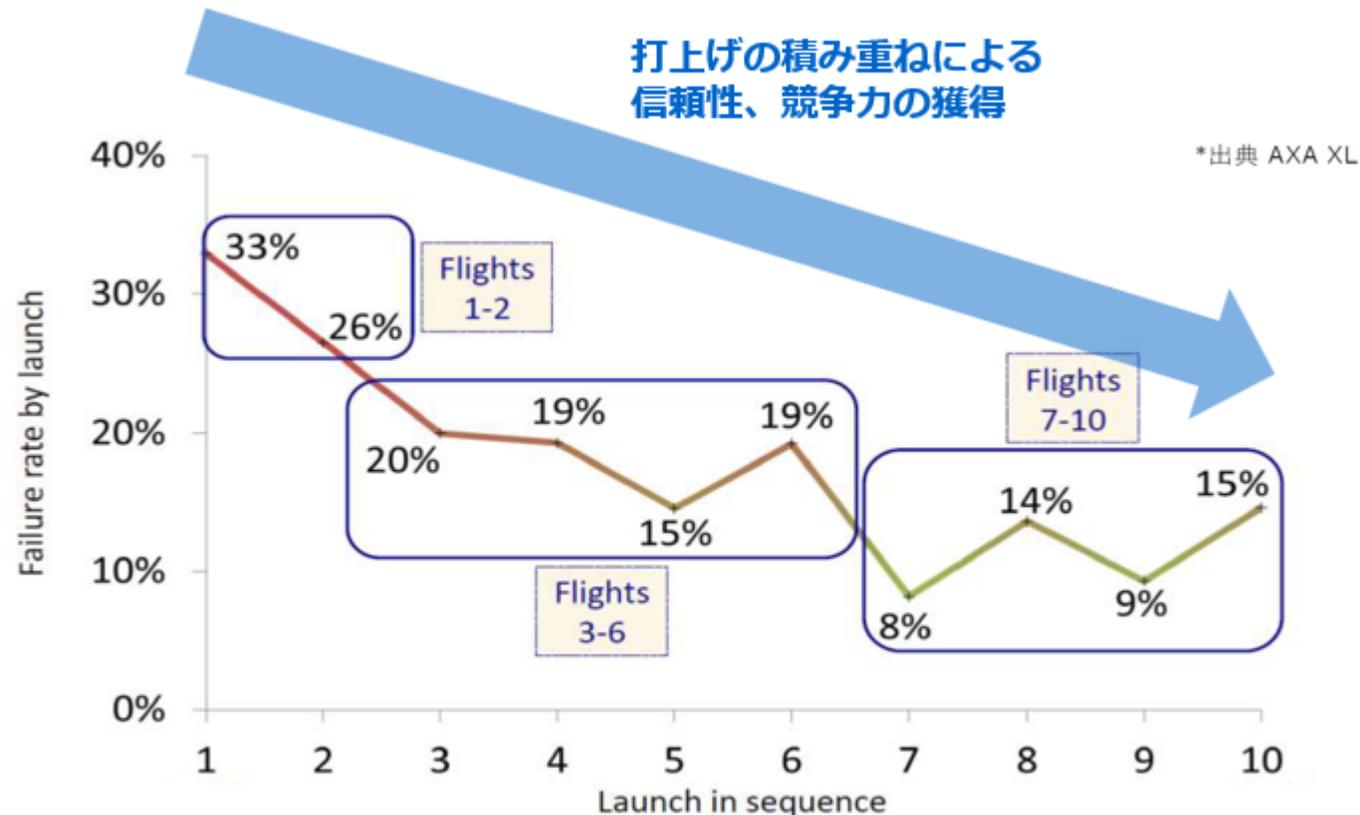
- 国内外で衛星等の打上げ需要が増加し、世界的にロケットの打上げ機会が不足している中、我が国の年間打上げ機数は5機程度であり、国内の衛星事業者は打上げ機会を求めて、海外での打上げを選択。
- 我が国の民間ロケットは国内の打上げ需要に応えられておらず、経済的損失や技術開発の遅れなどが生じており、このままでは国際競争に劣後し、自律性を損ないかねない状況。

## 【課題】

- 民間ロケットの事業化初期段階においては、打上げ失敗の可能性が一定程度存在しており、衛星事業者等の資金面のリスクを低減する打上げ保険等が付与されないなど、衛星事業者等からの受注が困難であり、早期の輸送サービス技術の獲得に支障を来している。
- また、ロケットが飛行中の追跡を実施するにあたっては、追跡地上局の不可視範囲の存在や地上局の設置・利用に要する多大なコストによって、打上げ能力が制限されており、高頻度打上げを実現する上でのボトルネックとなっている。

# 民間ロケットの輸送サービス技術

- 早期に輸送サービス技術を獲得していくためには、複数回の打上げ実証を通じて、成功実績を積み重ねながら、ロケットのシステム機能や信頼性向上、低コスト化、運用性向上に向けたロケットの設計・製造工程の改良といった開発・実証を進めていくことが重要。



打ち上げ機の最初の10飛行における失敗率（2000年以降）

# ロケット追跡技術

- 打上げ能力の拡大のためには、既存追跡手段である地上局の運用効率化技術や地上局の代替手段となり得る衛星テレメトリシステム技術（人工衛星を介してロケットのテレメトリを地上に送信）が重要。

